

☆ご自由にお持ちください☆



Wilhelm・Conrad・Röntgen
ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン
1895年 X線発見

放射線だより

2023年5月
No.6 (隔月発行)
担当：馬場俊明

from Radiation House

上部消化管バリウム検査 (MDL)

当院の検診バリウム検査では、日本消化器がん検診学会が推奨する撮影方法を用いて、食道・胃のどこに病気があっても写真に写るよう18枚以上も撮影をしています。また、胃は消化管なので常に蠕動運動を行っているため検査前にブスコパンという蠕動運動を一時的に抑制する注射を使用するか問診時に選択する事が可能です。

Q1 ブスコパンは何処に打ちますか？

→利き手と反対の腕に打ち、筋肉注射になります。

Q2 副作用はありますか？

→稀にめまいや動悸があります。心臓病・緑内障・前立腺肥大がある方は打てません。

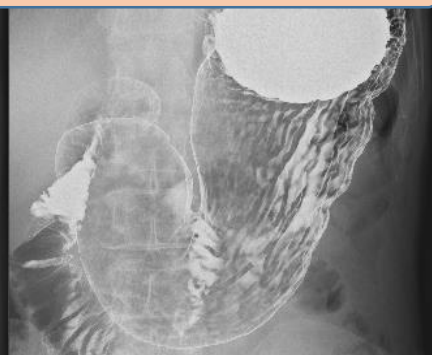
ブスコパン効果ありの症例

白く写る物体が飲んだバリウムです。投与ありに比べ、投与なしの方はバリウムが小腸に流れてしまい、重なっている部分に病変があっても分からない事があります

投与あり



投与なし



ブスコパン効果なしの症例

投与あり・投与なし共に小腸にバリウムが流れてしまい重なっている部分が多々あります。また、バリウムの胃粘膜への付着がブスコパンありに比べ弱いのが分かります

投与あり



投与なし



ブスコパンは投与しても100%効果を発揮するわけではありません。薬ですので、効果は残念ながら個人差が生じてしまいます。ブスコパンを打つ・打たないは検診利用者の自由ですので、検診受診時にぜひご検討下さい

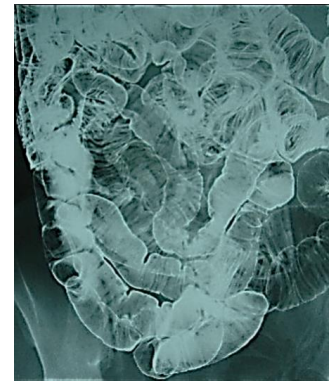
胃の検査は年に1回です。非常に大変ですが、検査へのご理解とご協力を願います。また、検査中でも何かあれば遠慮せず担当技師にお声かけ下さい。宜しくお願いします。
(文責：田中)

当院で行っている消化管造影検査について

当院で行っている消化管造影検査のうち、今回は小腸造影検査、注腸造影検査について紹介します。

小腸造影検査とは・・・

小腸造影検査とは、造影剤を飲み（投与し）、その造影剤が小腸を通過していく様子を、X線を使用し観察・撮影を行う検査です。今でこそ、小腸内視鏡も普及してきましたが、小腸の全長を一度に検査できるため、現在でも一般的な検査法といえます。



注腸造影検査とは・・・

注腸造影検査とは、造影剤（バリウム）を肛門から大腸の中に注入し、X線を使用し観察・撮影し大腸の病気を調べる検査です。

大腸の検査には内視鏡検査が一般的に知られています。注腸造影検査は代替検査として、内視鏡を使えない方に行われることが殆どになっています。

大腸内視鏡検査は腸管の中から評価しますが、注腸造影検査では大腸の外から、大腸全体と病気の場所の位置関係を見ることができます。さらに周りの臓器や骨などとの位置関係も見ることが出来ます。



被ばくに関して・・・

透視検査での放射線被ばくは検査内容ごとに、さらに患者さまごとに大きく異なります。

当院では平面検出器(FPD:Flat Panel Detector)搭載X線透視装置が診療部門で3台、健診センターで3台稼働しておりデジタル高画質で、より被ばくの少ない検査、治療を行えるようになっております。また、正確な診断ができる十分な画質を確保しつつ、最適な放射線の量で検査をおこなうために、必要最低限の線量と照射時間となるようにコントロールしておりますので安心して検査をお受けください。

少しでも不安なこと、わからないことがございましたら、お気軽に担当スタッフにお尋ねください。



ZEXIRA
(キヤノンメディカルシステムズ)



2022年7月
新規導入
VersiFlexVISTA
(富士フィルムヘルスケア)



2022年6月
新規導入
CUREVISTA Open
(富士フィルムヘルスケア)